

令和3年度 自 己 評 価 表(最終評価)

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する	今年度の 重点目標	社会人・職業人としての基礎的な力の育成（授業改善、職業教育・進路指導、生徒指導、自治活動） 障がいのある人の地域での活躍を目指して（地域・企業連携、部活動等、啓発・広報活動） 働きやすい職場、一人一人が成長できる組織作り（人材育成、時間外業務削減）
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (1) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
社会人・職業人としての基礎的な力の育成	○授業改善 ～「考える力」をつける～	○生徒アンケートより、「勉強がわかる、ややわかる」と回答した生徒が全学年8割だが、「わかる」は5割に達していない。 ○「授業が楽しい」と感じている生徒は5割から8割弱と学年により差がある。	○基礎的な学力が身につき、自らが学ぼうとする意欲が育っている。 ○生徒アンケート「勉強がわかる」「授業が楽しい」が前年度より向上している。	○学習の基礎となる「学習のルール」を定期的に確認する。 ○教科会を設定し、授業の見直しを図る。 ○研究研修担当と連携し授業研究会を実施する。 ○授業改善のために情報発信をする。	○生徒アンケートの項目「授業はわかるか」「授業は楽しいか」、肯定的に回答した生徒は前年度より向上したが、上位の回答「わかる」は前年度より低下した。 ○職員アンケートより、「考える力をつける」授業づくりに取り組んだことで9割超の指導者が、意欲が育ちつつあると感じている。	B	○引き続き、「考える力をつける」授業改善を教務部と研究研修担当とが連携しながら取り組むとともに、学習の基礎となる「学習のルール」の定着を図る。 ○より学習に集中して取り組めるよう、学習環境を整理する。 ○授業改善の取り組みを促進するため、後期に集中していた教科会を年間を通して実施できるようにする。
		○異動による教職員の大規模な入れ替わりや様々なキャリア段階の教職員の在籍等のため、生徒が「考える」授業づくりへの取り組みが不十分である。 ○生徒の実態に大きな幅があり、一斉指導の中にも細かな支援や配慮を必要とする。	○授業の中で、生徒の「考える」姿が見られるように、教職員が授業改善に取り組んでいる。	○教科グループで授業づくりの研修会を行い、取り組みについて職員で共有する。 ○授業研究会を行い、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組む。（就労準備性チェックリストの実施）	○計画的に教科グループでの話し合いを行ったり、授業実践シートを作成したりすることで、自分の実践を振り返り、授業改善への意識が高まった。 ○様々なキャリアの教員が授業参観することで、授業者が多くの指導・助言を受けることができ、授業改善のきっかけとなった。	B	○各種アンケートや取り組みの反省を基に、授業づくりの研修、および授業研究会を計画的に設定し、教職員の授業力の向上を図る。 ○教職員一人一人、または教科グループの取り組みについて校内ネットワークを活用して共有する。
		○職業教育・進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○専門共通目標と各コースの振り返りをシートを使ってやっているが、活用は不十分である。	○コース選択や進路を考えるときの材料として振り返りシートが活用されている。 ○個の目標を設定するときに振り返りシートが活用されている。	○ローテーションが変わるタイミングやコース選択の時期に振り返りシートの活用を促した。 ○多くの教員が振り返りシートの意図を理解している。	B	○今後も、継続して振り返りシートの活用を促していく。
		○現場実習での生徒一人一人の課題についてコース担当者で共有できているコースとできていないコースがある。	○コース担当者が生徒一人一人の課題を把握し、コースの特性を活かしながら、生徒に必要な職業的スキルを伸ばす教育が行われている。	○生徒の課題の共有方法や職業的スキル向上のためにコース内でできることを、コース会の議題にするなど、協議する時間を確保する。	○担当者全員で行うコース会で、生徒の課題を共有することの必要性和共有方法について話し合った。 ○学校アンケートより、約9割の教員が生徒一人一人の課題を把握しながら、教育を行っている。	B	○今後も継続して、生徒の課題について教員間での情報共有を促していく。 ○社会が求める人材の育成を実現するため、進路との連携を深める。
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業前スキルが不十分なままに就職する生徒がいる。	(1年生) 自分の良さと課題を理解している。 (2年生) 自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 (3年生) 自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団と進路部が連携して計画的に実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業前スキルを身に付けるきっかけとして、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。	○日々の授業で課題を改善できるように、現場実習の評価を活用できる仕組みを整えた。 ○働くイメージを持つために、地区別セミナーや出前授業等で卒業生の紹介をした。 ○職員のニーズを吸い上げながら研修を定期的に実施した。	B	○現場実習の評価を活用できるように、評価共有の会を実施する。 ○進路にかかわる行事の精選や内容の見直しを行い、キャリア教育の充実をはかる。 ○職員のニーズを吸い上げ、定期的に研修を実施する。
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○多くの生徒がSNSを利用しており、トラブルが生じることもある。 ○生徒のみでトラブルに対応してしまい、拡大・複雑化してしまうこともある。 ○睡眠時間の不足や人間関係の悩み等から生活リズムが崩れたり、学習に向かえなかったりする生徒もいる。	○保護者とともに決めた携帯電話等の使用ルールを守ることができる。	○保護者とともに「我が家のルール」を作成し、定期的に見直しを行う。 ○個人懇談等を通じて、保護者と情報共有を行う。 ○具体的なネットトラブル事例を題材とした生徒・保護者・教職員対象の各講演会や研修会を実施する。	○年度初と冬季の2回、生徒・保護者で「我が家のルール」の作成や見直し・確認を行ったが、個々のルールへの意識は十分ではない。 ○SNS等でトラブルが生じてもすぐに保護者・学校に相談することができたケースはわずかだった。 ○外部講師による講演会は延期となり実施できなかった。	C	○汎化しやすくするため、より具体的な事例や資料を活用した学習や指導に取り組む。 ○保護者との情報共有を進める。 ○予備日も含めて外部講師による講演会の日程を調整・計画・実施する。
		○挨拶、返事、時間を守るなど基本的な生活習慣や学習・集団規律が習慣化されていない生徒が少なくない。 ○自分の気持ちのコントロールの仕方がわからず適切な表現ができない生徒や自分のよさが実感できず自己肯定感の低い生徒が少なくない。	○生徒自らが生活や学習態度を見直し、よりよくしたり、学習・集団規律を守ったりして生活することができる。 ○自分の気持ちをコントロールする方法を身につけて生活したり、学習や生活の中で自分の成長を実感したりすることができる。	○基本的生活習慣や規律を守ることがなぜ大切なのかをLHR等で随時指導する。 ○わかる授業を展開し学習規律を徹底するとともに、個に応じた指導を職員間で共通理解し一貫性のある指導を行う。 ○担任面談や職業自立の学習の中で自らの生活や自分自身を見つめ、課題や目標そのための行動を具体的にしたり、できるようになったことを確認したりする。	○挨拶、返事などを意識して生活する生徒も増えてきている。学習規律やその他の基本的生活習慣はまだ定着できていない。 ○担任面談や学習、個別の振り返り等を通して、自身の課題を把握し気持ちの切り替え方を身につけ落ち着いて過ごすことができるようになってきている。 年度当初と同じ一定数の生徒は自分のよさを十分には理解できていない。	C	○一貫性のある指導となるように、基本的生活習慣の定着や学習規律を守ることがなぜ、何のために必要なのか、職員間で共通理解した上で、継続した指導を行う。 ○生活や学習態度を生徒自らで振り返り、どうしたらよいのかを考える活動を設定する。 ○日々の学習や生活の中で、自分の良さや課題を見つめ、その課題に取り組んでいくのか考えたり、相談したりする場面を設定し、自己理解につなげる。
		○歯と口の健康への意識が低く、歯科検診後の受診行動に結びついていない。 ○歯磨きの習慣は身に付いているが、方法が不十分な生徒が多く、口腔内の清潔が保たれていない生徒が多い。	○自らの歯と口の健康に関心を持ち、課題を見つけ、主体的に行動できる自己管理能力が育成されている。 ○地域や家庭と連携し、関係機関の協力を得ながら課題解決に取り組むことができる。	○関連教科で時期に合わせて取り扱い、理解を深める。 ○委員会活動を通して、啓発を行い理解を深めていく。 ○保護者・地域との連携を強化していく。	○昨年に比べ、歯科の治療率が上がった。 ○保健給食委員会や体育委員会の活動ができた。 ○学校保健委員会での報告ができなかった。	B	○ブラッシング指導はかなり有効だったが、毎日の実践に結びつけるための方法を考える。 ○家庭科・保健体育以外の教科での実践が出てこなかったなので、実践の依頼を具体的に行う。 ○HP等を通じて保護者への啓発を行う。

様式 2

			○自分の課題を意識し、積極的に自分から挨拶できる舎生もいれば、自分から挨拶できない舎生もいる。また、他者からの挨拶を返さない舎生がいる。 ○最初に出会った職員1人に挨拶したら、その後に出会った職員に挨拶をしない舎生も多い。	○相手に聞こえる声で、出会った職員に対して自ら「おはようございます」と挨拶することができる。	○なぜ挨拶をする必要があるのか、自分たちで考える機会を設定する。 ○強化週間を設定し、出会った人に対して挨拶ができるよう習慣づけを図る。 ○定期的に振り返りを実施し、自己評価、他者評価を繰り返す。	○年間の取り組みを通して自分からあいさつをすることに対しての恥じらいが無くなり自信をつけることができた舎生、あいさつを交わすことの利点に気づくことができた舎生が多くいた。 ○少しずつあいさつに積極性が出てきているが、未だ課題が残る舎生も多い。	B	○あいさつの重要性を伝えつつ、あいさつの種類も広げていく。 ○寄宿舎職員からも積極的にあいさつし、日常的にあいさつを交わしやすい環境の設定。 ○個々の課題への支援策と一緒に考え、実践していく。
	○自治活動の推進 ～生徒が考え行動する～		○生徒の中に、自分が生徒会活動の主体となって学校生活をよりよいものにしていこうとする意識が少ない面が見られる。	○よりよい学校生活を築こうとする意欲・行動力を身につけ、生徒が自発的に問題点や課題等を改善・解決している。	○生徒主体による、全校レクリエーションを行う。 （自信につなげるために、無理のない範囲で準備・運営を行う。） ○生徒総会を、年間2回実施する。	○各種委員会活動や学校行事において、生徒が自分の係や役割を意識したり、取り組みに関して活発に意見を出し合ったりする姿が見られた。 ○生徒会執行部の取り組みとして校内に意見箱を設置し、ルールや使い方などを確認した上で学校生活をよりよくするための活用を呼びかけた。	B	○意見箱については、今後、生徒会執行部で意見紙の取り扱いを協議し、2月末の生徒総会を経て要望書につなげる予定。 ○生徒がよりよい学校生活を築くために、意欲や行動力と合わせて、自分と向き合うことができる力を身につけるための支援・指導をしていく。
			○琴海会三役を中心に、指示されたことはきちんと協力的にできるが、主体的に自治会活動・行事を企画・運営するところまでは達していない。	○三役を中心に主体的に琴海会の活動・行事に関わり、舎生自ら企画・運営を行う。	○三役会、各行事実行委員会を適宜開催し、自由にアイデアを出し合いながら、可能な限り自分たちで企画立案・運営が行えるよう支援をする。	○琴海祭の代わりとなるお楽しみ会を三役を中心に企画することができた。クリスマス会では三役が企画だけでなく運営も自分たちですすめ、他の舎生も積極的に会に関わり、自分たちで楽しい会を作り上げた。 ○意見箱への投書数も増え、三役も舎生の意見を引き出そうとするなど、自治会への積極的に関わる姿勢が見えた。	B	○琴海会は自分たちの会であり、自分たちで運営していくものである、という意識が三役のみならず舎生全体に広がってきた。 ○今後はその意識・姿勢を実際の行動につなげる必要がある。そのために、舎生が自分たちでコントロールできる部分を広げていき、舎生を引っ張っていく支援ではなく、支えながら後ろから押していく支援が必要である。
	障がいのある人の地域での活躍を目指して	○学校運営協議会を活用した地域連携・企業連携	○昨年度、3回の会議を実施した。その内1回は、就労に視点を絞って技能検定の様子を参観した後、協議を行った。	○幅広い分野から参加していただいているという強みを生かし、各分野からの助言を受けながら本校の取り組みを進めていく。	○地域と連携した取組事例を残していくとともに、現在の状況でできる活動を継続していく。 ○現在も行っている企業との日常的な連携を継続するとともに、新たな企業へ向けての情報発信を行うことで連携を深める。	○県立学校としては、地域とのつながりが強いといえる本校である。地域からの協力を受けながら、教育活動を行うことができた。 ○進路担当を中心に、日常的に企業との連携を取ることができた。あわせて、卒業生のフォローアップにも取り組むことができている。	B	○引き続き日常的に地域との連携を継続していく。直接の交流が難しい現状が継続するようであれば、ホームページ等の活用をより進めていく。 ○生徒の卒業後を考えると、企業との連携は引き続き重要となってくる。日常的な連携をより大切にしていきたい。
			○昨年度は新型コロナウイルス感染症への対応により、企業を対象とした学校公開ができなかった。昨年度、企業情報についての情報提供を受けた。	○幅広い分野から参加していただいているという強みを生かし、情報提供を受けるとともに情報発信を行うことで連携が推進されている。	○昨年度情報提供を受けた企業へ向けて、本校の情報発信を行う。（学校案内送付・訪問等） ○学校運営協議会において、就労という視点も含めて協議を行う。	○昨年度情報提供を受けた企業へ向けてアンケートを送付した。回答をもとにニーズを把握し、就労促進セミナーや企業参観日の参加、現場実習の受け入れにもつながった。	B	○アンケートは3年に1回実施し、定期的に企業のニーズを把握する。 ○学校運営協議会において、引き続き就労の視点も含めて協議を行う。
		○生涯体育、文化、芸術活動（部活動等）の推進	○参加できる大会が、少なくなっている。そのため、部活動に対するモチベーションが保ちにくい。	○部活動、大会等に自主的に参加する生徒が育っている。 ○将来的にも運動や文化活動に参加できる環境が整っている。	○部活動参加率を昨年度より上げる。 ○部活顧問会、部長会の活性化を進める。 ○部員、教職員の参加状況を把握し向上させる。 ○HPを利用して生涯スポーツの紹介を行う。 ○生徒の活動場面や大会参加状況の情報発信を行う。（ホームページ・Facebook） ○地域のスポーツクラブや文化活動に参加している生徒の紹介を行う。	○コロナ禍ではあったが安全に部活動に取り組もうと話し合いをし部員一同力を合わせて取り組むことができた。 卒業後も自主的に大会等に参加する生徒が育っている。 積極的に地域交流活動に取り組み地域の方に喜ばれ琴の浦の知名度が上がった。（ダンス部・美術部・音楽部・ボランティア部） ○FIDバスケットクラブ・琴の浦クラブ等、将来的にも運動や文化活動に参加できる環境が整いつつある。	B	○今後も部活動規定や部活動内規にあるルールをしっかり共通理解し取り組むことが大切である。 ○生涯体育や文化活動の大切さを、卒業生を通じて伝えていく取り組みをもっと進めていく。
働きやすい職場・成長できる組織作り	○校内組織の改編と校内研修・授業研究の工夫（人材育成、時間外業務縮減） ○コンプライアンス	○来校・訪問等を通じた地域支援や地域と連携した活動が難しい現状から、これまで行ってきた啓発・広報活動が困難となっている面がある。 ○小中学校は、進路選択に向けた体験や見学等のニーズが高い。	○現在の来校・訪問等を通じた地域支援や地域との連携した活動を継続するとともに、日常的な活動の様子の情報発信が行われている。	○ホームページの刷新を行う。 ○Facebookを活用し、日常の取組の様子の情報発信を行う。 ○保護者に向けて、ログインページを活用して保護者に学校や寄宿舎の様子を知ってもらえるような取組を継続する。 ○地域のニーズに応えるため、学習場面への参加や公開等の規模や方法を工夫し、実施する。	○ホームページの刷新を行う。 ○Facebookを活用し、日常の取組の様子の情報発信を行う。 ○保護者に向けて、ログインページを活用して保護者に学校や寄宿舎の様子を知ってもらえるような取組を継続する。 ○地域のニーズに応えるため、学習場面への参加や公開等の規模や方法を工夫し、実施する。	○トップページの情報を精選し、見やすいレイアウトとすることができた。 ○日々の生活や学習の様子の情報発信を、Facebookで行うことができた。 ○保護者アンケートでは、ログインページの評価が高かった。 ・公開方法の工夫（内容や時間）をする中で、地域への公開を進めてきた。	B	○定期的な記事と変化のある記事を混ぜながら、必要な情報が盛り込まれているホームページを継続していく。 ○今年度同様、Facebookを継続していく。（分掌の中に位置づける。） ○日々のより詳しい学校生活や寄宿舎生活の様子を伝えるために、ログインページをより充実させる。 ○今年度同様に、できる最大限の公開方法で、地域や学校への発信や受け入れを積極的に進めていく。
		○校内組織の改編と校内研修・授業研究の工夫（人材育成、時間外業務縮減） ○コンプライアンス	○昨年度は時間外業務月45時間を越える職員は昨年度いなかった。しかし、個々に見ていくと差が見られる。	○引き続き、月45時間・年間360時間を越えない時間外業務とする。（継続・時間外業務減少）	○衛生委員会において、個々の時間外業務について確認をする。適宜、声かけを行う。 ○時間外業務の差を校内組織という視点で捉え、今年度改変した検証を行うとともに来年度の組織作りにつなげる。（職員アンケート等）	○月1回の衛生委員会を、開催することができた。その際、個々の時間外業務や業務量について検討することができた。	B	○年間スケジュールの中でメリハリをつけるながら、時間外業務の減少へとつなげていく。 ○衛生委員会を通して、個々の健康状況の把握をより進めていく。